

取組 4 浅羽海岸地域の保全

取組の評価

2.7 一部に改善を要する

＜取組4の基本方針＞

- 1 海岸地域全体の保全
- 2 海岸浸食対策の推進

3 松枯れ対策の推進

【取組の目的】 海岸浸食対策と沿岸地域の松枯れ対策などを推進し、美しい白砂青松の環境を保全します。

『 取 組 』 に 係 る 社 会 の 動 向 ・ 本 市 の 現 状 （ 主 な 取 組 ）

《社会の動向》

◎治水や利水及び発電などを目的としたダムが建設され、河川から海岸へ流出する土砂の絶対量が減少したことにより、海岸浸食が全国各地で起きている。

こうした中、富士山とともに貴重な景観として世界文化遺産に登録された三保の松原では、長い年月を経て日本人の心、文化、生活を育んできた地域資源に対する価値観が高まりを見せると共に、世界に認められた景観を後世に引き継ぐための動き（海苔浸食・松枯れ対策）が活発化している。

《本市の現状》

◎遠州灘沿岸の砂浜は、主に天竜川から運ばれてくる土砂によって形成されているが、天竜川への多数のダム の築造や河床の砂利採取により、また、 海岸の土砂の供給量が減少したことや海岸における構造物の建設、漂砂の連続性が遮断されたことによる急激な海岸浸食が進んでいる。

◎近年の海岸浸食や松枯れ被害によって、危機的な状況に直面しており、この状況を放置すれば、砂浜、砂丘、海岸林は、海岸防護等の機能を失い、津波や高潮などによる大きな被害が予測される。海岸浸食や松枯れ被害の長期化は、生活の場となっている陸地まで失うことも憂慮されている。

◎一方で、平成25年度には、江戸時代からこの地に伝わる先人の知恵を現代に復活させる形で「平成の命山」が整備されたことにより、地域資源の継承と安全対策の両面の充実が図られた。

『取組指標』の分析と評価結果

番号	指 標 名	項 目	H24	H25	
1	浅羽海岸環境保全対策のボランティア参加者数【人】	目 標 値	2,730	2,820	
		実 績 値	2,585	2,679	
		達成率	伸び率	94.6	▲ 2.0
		95.0	3.6		
		評 価	1	2	
		目 標 値			
		実 績 値			
		達成率	伸び率		
		評 価			
		目 標 値			
		実 績 値			
		達成率	伸び率		
		評 価			
		目 標 値			
		実 績 値			
		達成率	伸び率		
		評 価			
			評価結果の平均値（A）		
			2.0		

《評価基準》

《指標に影響を与えた主な取組、要因》

4:達成率 $\geq 100\%$ ・前年比伸び率 $\geq 0\%$ 3:達成率 $\geq 100\%$ ・前年比伸び率 $< 0\%$ ②地元自治会及び周辺企業への呼びかけ、各種ボランティアの協力により、例年並みの参加者を得ている
2:達成率 $< 100\%$ ・前年比伸び率 $\geq 0\%$ 1:達成率 $< 100\%$ ・前年比伸び率 $< 0\%$

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果

評価項目	H25	備考欄
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎ 防風林については、従来からグリーンウエーブ活動などボランティアの手で草刈りを行い機能保全に努めている。この事業は地域資源に対する愛護意識の向上に極めて有効である。 ◎ 海岸保全についてもボランティアによる愛護活動を行っているが、海岸浸食に対しては十分な効果は期待できない。県が施工するサンドバイパスシステムに期待がかかる。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	◎ 海岸は、防災、景観、憩いの場など多面的な機能を有する貴重な資源である。近隣住民はもとより多くの市民に恩恵をもたらす有益な存在であることから、愛護意識を大きく育てる取り組みとして、草刈りやゴミ清掃などを定期的な催しとして継続実施していくことが必要である。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	2	◎ 海岸浸食や松枯れ被害は危機的な状況に直面しており放置すれば、近い将来、砂浜や海岸林は海岸防護等の機能を失うことになる。遠州灘沿岸保全対策促進期成同盟会により、サンドバイパスシステムの早期本格稼働を県に要望するとともに、引き続き市民等と市のパートナーシップにより、グリーンウエーブ活動や海岸愛護活動等の海岸保全活動を促進させていく必要がある。
評価結果の平均値 (C)	2.7	

『主要事業』に係る事業評価表の評価結果

番号	主 要 事 業 名	事 業 評 価 表 の 評 価 結 果		
		有 効 性	効 率 性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	河川・海岸愛護事業	3	3	3
2	松くい虫等防除事業	4	3	4
3	松林保全管理事業（グリーンウエーブ活動）	3	3	4
4	生活環境保全林草刈事業（県有防災林）	3	3	3
5	生活環境保全林ゴミ清掃事業（県有防災林）	4	4	4

取組』の総合評価と今後の展開方向

取組の評価					
2.7	一部に改善を要する	各評価結果の平均値	取組指標の評価結果 (A)	有効性等の評価結果 (C)	主要事業の評価結果 (B)
			2.0	2.7	3.4

《 評估基準 》

4. ～ 3.6 : 順調
2.9 ～ 2 : 一部に改善を要する

番号	取組の基本方針	H24	H25	今後の展開方向
1	海岸地域全体の保全			将来にわたり海岸地域を保全していくため、地域、NPOや企業とのパートナーシップを継続して実施し、保全活動参加者を増加させていく必要がある。
2	海岸浸食対策の推進			環境や漁業活動に配慮し、サンドバイパスの早期の本格稼働などを県に要望していく。
3	松枯れ対策の推進			松林の健全な保全のためには、自分たちの貴重な財産として自らが守っていくという意識を育んでいくことが大切である。引き続き地域と協力して保全活動を実施するとともに、県に松枯れ対策の充実を求めていく必要がある。

《展開方向》

拡充（順調）



拡充（改善必要）



繼續推進



縮小

